

第3号様式 別紙2  
 令和5年度 講座等企画団体助成事業  
**事業報告書** (ホームページ公開用)

講座名	第27回沖縄県母親大会
日時	2023年9月16日(土) 午後2時～午後4時
目的	記念講演で問題提起をしてもらい、その後グループディスカッション。又、職場や地域からもそれぞれの状況を報告発言をしてもらう。グループディスカッションでは疑問や感想を出し合い、今後のそれぞれの職場や地域などの活動に活かせるようにする。
対象	県内在住の女性及び関心のある市民
講師	賀数仁然 (琉球歴史文化研究所クボウグランデ所長)
会場	那覇市 JAおきなわ真和志支所
定員	100名(申込者数70名)
参加者数	67名(うち男性9名)
講演内容(概要)	琉球王国時代の地図だが今と比べても遜色がない。18世紀には琉球全体の地図が存在していた。伊能忠敬の日本全図ができる以前に蔡温の伝えた技術で以て作った物。蔡温は海の向こうからやってきた技術を自分たちの物にして誰でも使えるようなマニュアルも作っていた。海の向こうから素晴らしい物がやってくる。ニライカナイ思想。東南アジア諸国や中国とも贈り物や交易を通じて友好な関係を築き、自分たちの国をも富ませてきた。万国津梁の精神で。それだけでなく、海外の技術を取捨選択して取り入れ、洗練させて薩摩を通じてだが、琉球の緋や染めの技術を全国に広めって行った。これがペリーが来る以前の琉球の様子。ペリーがやってくる前後でもヨーロッパ船は来ていた。そのヨーロッパ人たちとも友好な関係で交流し、英語などを自分たちのものとしていった。それを駆使してペリーが来たときも大いに応用活用し、存在しない政府まで作って、追求されたら「なんでかね」「だからよ」でかわす高等戦術で独立を保った。しかし、琉球王国が消滅し、明治政府の元で沖縄も軍事国家の戦争に巻き込まれていく。沖縄戦で壊滅した首里城の廃墟から米軍は鐘を発見している。万国津梁の鐘。沖縄の人々はしっかりと鐘を守った。踏まれても踏まれてもフワと相手を包み込み、したたかに立ち上がっていく。これが沖縄の人。これが万国津梁という最強にして最大の武器。
参加者の声	・講師の賀数仁然さんのお話は面白くて内容も深く、もっと聞きたい思いがした。ギリギリで参加できたが、来年も楽しみにしている。・旬の講師で期待していたとおりのいやそれ以上の話術に引き込まれた。沖縄人でよかったと誇りを持てた。元気が出た。沖縄のコミュカを生かした民間外交に期待。・笑いあり、力をもらえた講演だった。ふまれてもふまれても折れないウチナンチュのたくましさを再確認した。・わかりやすく、孫(中学生・高校生)たちに聞かせたい話だった。・「だからね～～」「だからよ～～」平和の言葉として広げたい。(一部抜粋)
写真	別添
共催	(公財)おきなわ助成財団

財団への報告書に  
添付

